

ロール
モデル
04



長岡 由女

医学科
腎臓内科学分野
講師

東京医科大学卒業
東京医科大学 博士（医学）
2012年より現職

これまでの道のり

親が開業医で仕事が大変なことを見ていた
ので医者にはなりたくないと思っていま
した。高校3年生になり進路を考えた時に、やり
がいがありそうなことはわかっていたし、
他の職業を思いつかなかったこともあり医学
部に進むことにしました。卒業をしてすぐに専
門領域を決めることはせず、研修病院に進み
ローテーションでいろいろな診療科を体験し
ながら腎臓内科に決めました。透析療法は自
分に合っていたと思います。

大変だったこと

若いときは日々新しいことに会い目の前のこ
とをただひたすらやっていたが、評価され
ると仕事が増え、職位が上がれば雑務も増えま
す。やるから増える、引き受けるから増えるとい
う状態で自分の時間が無くなるというジレンマ
に陥りました。医局のマネージャーとしては、あ
る程度自分でも評価できるとしていますが、
大学病院にいるのだから臨床や臨床研究をし
ているだけでいいのか、有意義な研究ができて
いないという思いもあり、何度か辞めよう
と思ったこともありました。自分の中に「あるべき
大学人像」があり苦しくなりました。このたび講
師からまもなく准教授に昇任することも決まり、
さらに覚悟をしなくてはいけなくなりました。で
も自分で決めてきたことだからいけるところま
で頑張ろうと思います。

研究テーマ (一言でいうと)

20年近く透析療法に携
わってきましたが、特に
糖尿病性腎症の治療に
ついて、薬物療法や栄
養療法からアプローチし
て、腎機能を保持し透析
導入を遅らせるための
組み合わせ治療の研究
をしています。

研究を続けられた モチベーション

本学の腎臓内科は小さな医局なので、飽きるこ
となくいろいろなことができ、今も面白いこと
が見つかります。いろいろなことを知れば知るほ
ど底なしにやってみたいことが見つかります。腎
臓内科は市中病院にもニーズがある領域なので
臨床だけであれば大学病院にいる必要はないの
ですが、ここで後輩を指導、育成し、また下の人
から刺激を受けて新しいことを考えるのが楽しい
です。
本学の卒業生で辞めずにいる女性医師だからな
のだと思いますが、期待されているのを感じま
す。やるべきことがある、必要とされているとい
うことは私のモチベーションになっていると思い
ます。
私は結婚が遅く、子どももいませんのでついつい
休みがないような状態で仕事をしてしまいます。
夫とは家事もそれぞれにやりますので、独身の

時よりは楽になった部分もあります。その夫が、
仕事にあった地位にあるべきだと背中を押して
くれるのも私の力になっているように思います。

研究の魅力、これからの夢

腎臓内科は薬を1錠足して調整していくような
細かい地味な治療とドラスティックな透析治療
などいろいろな研究ができるところが面白い
です。患者さんの役に立てることがやりがい
になります。
臨床の仕事は生涯続けたいですし、今は臨床研
究、学生の教育、講演、週に1日は山形で実家の
医院の手伝いとフル活動なので、少しのんびり
暮らせたらいいなあと思います。

自分で決めてきたから、 行けるところまで頑張る

未来の女性研究者への応援メッセージ

若いときの忙しさは辛いと思わないで頑張ってみる

臨床でも研究でも高いレベルのものをめざせ
ば、辛いこともあるけれど楽しいことも出てきま
す。若いときの忙しさは辛いと思ったらだめ
です。辛いことを頑張る時期もあると思うので
す。頑張っていれば何かしら見つけ、また見つけ
てもらって一人ではないことがわかります。
女性医師の中には専門医資格を取って子どもを
産み、クリニックでパート医師をしたいと思う人も
いるかもしれません。私は女性医師の就業継続
を進める仕事も兼任でしていますが、子育てし
ながら継続して大学で働く意思を持っている人
を第一優先にサポートをしたいと思っています。

